

集中治療室における非観血的持続血糖測定装置(Free Style リブレ)の有効性に関する検討

1. 研究の対象

2018 年から 2021 年の間に急性疾病や手術終了後に集中治療室へ入室され、非観血的持続血糖測定装置(Free Style リブレ)を使用された方。

2. 研究目的・方法

重症患者の治療を行う集中治療室では、血糖値を適切にコントロールすることが治療成績に直接影響するため大変重要です。従来は、直接血液を採血して血糖を測定してきました。このため、1 日に4～8回の採血が必要で患者にとって侵襲的かつ負担であり、またその時点の測定値を示すのみでした。2017 年 9 月より保険診療適応となった非観血的持続血糖測定装置 (Free Style リブレ)は、シール型センサーを上腕に貼り付けるだけで、連続的に長期間の血糖測定ができる機器です。患者に対して侵襲がなく、また血糖値を連続的なデータとしてモニタリングできるため、集中治療室以外での医療現場や在宅医療において広く使用されています。その有効性についても世界中で報告されています。一方で、集中治療室での Free Style リブレの使用についての報告は、極めて少ないため、集中治療室患者における Free Style リブレの有効性を検証することにしました。2018 年から 2021 年までに、大阪国際がんセンターで急性疾病や手術終了後に集中治療室へ入室した患者で、Free Style リブレを使用した者を対象としました。

Free Style リブレの測定値を ICU における定時の一般採血検査における血糖値と比較検討することで、その有効性を検討いたします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：診療録 等

試料：なし

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 麻酔科 鉢嶺 将明

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

様式第 1-4 (2018. 4. 1 版)

電話 : 06-6945-1900

研究責任者 :

大阪国際がんセンター 麻酔科 鉢嶺 将明

-----以上